

新春のあいさつ

あけましておめでとうございます。皆さま方におかれましては、ご健勝のことかと思ひます。

今年は町制施行されてから50年を迎える年です。町としては節目の年でもあります。明治22年に村制を施行し、昭和38年4月1日に町制が施行され「津奈木村」から「津奈木町」へと変わりました。この50年間、幾多の困難にぶつかりながらも、町民の皆さまや先輩諸氏の努力があつたからこそ現在の津奈木町があります。

昭和38年といひますと、町の人口は約8000人。現在では約5150人、高齢化率34.6%と、町の人口は大きく変動し、少子高齢化が進んでいます。そのような中でどのようにしてまちづくりを行つていかなければならないのか。これまでの歴史を大切にしながら、今後の取り組みについて考えていかなければならないと思ひております。

水俣病公式発表が昭和34年に行われ、水俣病問題でチッソ関係企業の事業はだんだんと縮小し、働く人々も激減しました。働く場所が少なくないといふことで、若い人たちは他地域へ移り、この地域では過疎化が進んでおります。しかしながら、平成22年3月に新幹線が全線開通し、公共交通機関のインフラが整備され、地元から都市への通勤ができるようになりました。また、現在建設中の南九州西回り自動車道も平成27年度末の供用開始を目指して着実に進んでおります。昨年6月には内野地区に建設中の南九州西回り自動車道津奈木トンネルが貫通し、式典が行われ、地域住民やその他関係者の方々と喜びを分かち合いました。

町では、昭和59年から進めている町全体美術館構想に基づき「緑と彫刻のあるまちづくり」といふ文化行政を柱とする特色あるまちづくりに取り組んでおります。水俣病問題により、地域のイメージが大きく損なわれましたが、その暗いイメージを一掃しようといふことでこの取り組みを始めました。これまで、つなぎ美術館、つなぎ温泉「四季彩」、物産館グリーンゲイト、重盤岩の整備などを行いながら観光面における流入人口の増加を目指してまいりました。今後は、新幹線の全線開通だけでなく、高速道路も開通し、道路網のインフラもさらに整いますので、さらなる流入人口の増加に向けて努力してまいります。

今後のまちづくりとしては、自助・共助・公助の精神を持つて、行政と町民が「丸」となって取り組んでいかなければならないと考えております。「多くの人が訪れてくれる町」「後世に残せる美しい町」「誇りを持つて住める町」という3つの目標を掲げ、地区単位あるいは町全体で協力しながら取り組みを進めてまいります。これからも町議会の皆さまのご理解を得ながら、明るく素晴らしい町を作っていきたいと思ひております。町民の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

津奈木町長 西川 裕

三太郎駅伝中学生快挙！

第62回熊日三太郎駅伝競走大会で、津奈木中チームが活躍。中学生の部において大会新となる好タイムを記録しました。



町内公共施設トイレ改修工事完了

平成22年度から行われていた町内トイレ改修工事が完了しました。町内全施設のトイレが改修され、高齢者にも安心して利用していただけになりました。



8年ぶりの開催 金刀比羅神社祭り

大泊地区にある金刀比羅神社の祭りが8年ぶりに開催されました。当日は奉納相撲大会が行われ、大変賑わいました。



南九州西回り自動車道 津奈木トンネル貫通

平成22年3月から内野地区で着工していた津奈木トンネルが貫通したことを記念し、貫通式展が開催されました。



芦北水俣郡市中学校 駅伝大会男子優勝！

水俣・芦北地域の中学校9校が参加し、総合グラウンドで開催された駅伝大会の男子の部において、男子駅伝チームが大会新記録の好タイムで優勝を果たしました。



津奈木町の

2012年

災害に備えて 合同防災訓練を実施

いざというときの災害に備えて、各地区公民館で合同防災訓練が実施されました。海拔表示板の確認や避難場所までの訓練移動も行われ、質の高い訓練が行われました。

